

沖繩セミナー・2011年 in 富山
沖繩の「自己決定権」の樹立との連帯を模索する
「沖繩の『自己決定権』との連帯を模索する」
川音勉（沖繩文化講座）

- 2012年1月15日（日） pm1:00～4:00
- サンフォルテ306号室

レジュメ

前置き—自己紹介を兼ねて

沖繩文化講座、沖繩講座、沖連
3・11の衝撃
富山で語ること

0 沖繩と地域（生活圏）をつなぐということ

職業、産業ごとの同一性に基づく連帯とは違うことの意味。
近代国民（民族）国家と地域

cf. 戦後・近代日本社会の地域生活圏から国民国家に至る政治空間の層秩序モデル（『戦後政治の歴史と思想』松下圭一 p365）→戦後米軍統治下の沖繩は？

- (1) 地域社会単位（いわゆるコミュニティ） = 市民活動
- (2) 基礎自治体単位（市町村） = 基礎行政
- (3) 広域自治体単位（県） = 補完行政
- (4) 国民社会単位（国） = 基準行政+直轄事業

地域住民運動（社会単位）間の交流、連帯。

日本社会諸地域間の交流・連帯と沖繩。

cf. 「地域をひらく」シンポジウム（『地域をひらく』花崎皋平）

0-1 沖繩—福島（『沖繩タイムス』記事「国策を問う 沖繩と福島の40年」（2011

年12月19日、20日付 開沼博・渡辺豪）…資料1

日本国家とそれぞれの地域住民・自治体の対応に、等質性を見る視点。

ドメスティック。

0-2 『沖繩タイムス』3つの社説 …資料2

2011年5月16日、6月23日、6月25日

基地と原発の等質性と差異性。

差異性の根拠：日本近代国家の歴史性。

0-3 沖縄—東京 「東京からの発信」という設定

運動のリアリティ問題としての〈沖縄—日本〉ではない〈沖縄—東京〉という軸の選択。

〈東京〉のなかの中央と地域

福島—東京

それぞれの地域の歴史から、日本近代国民国家をくくり出す。

〈日本近代≡沖縄近代〉あるいは〈日本近代≠沖縄近代〉

日本・沖縄近代が呼びこむ歴史の射程と地理の範囲

日本近代、戦後日本：東アジア・環太平洋圏・米国

沖縄につながる私の（それぞれの）ポジション（～沖縄でつながる）

cf. 近代史のなかの〈日本—福島〉

1 沖縄連帯の具体的課題

1-1 08年5月沖縄シンポ『来るべき自己決定権のために—沖縄・憲法・アジア』

（『マーカラワジーガ』）

反改憲の運動「9条改憲阻止の会」→「9条の選び直し」→日本近代・戦後の再総括

「反復帰の思想資源」「琉球共和社会憲法」の意義→沖縄近代・戦後史総括をアジアに開く

報告（屋嘉比収さん）・シンポの構成

那覇・沖縄知識人の尽力、孫歌さん、崔真碩さんの参加。

運動現場からの発言（辺野古、高江）

1-2 沖縄連帯の活動

『情況』インタビューシリーズ

由井晶子さん、山城博治さん、仲地博さん、崎原盛秀さん、伊波洋一さん、高良勉さん、…

思想と運動現場とをつなぐ

日本社会諸地域、さらに東アジアへ、というところで足踏み。

cf. 「新宿ど真ん中デモ」の人たちの果敢な闘い。

諸地域社会、社会諸集団の基礎コミュニティを育て、ラディカルな闘いの種まきをすること。

1-3 2012年沖縄

「復帰40年」

普天間基地移転と撤去の現実性

高江ヘリパッドとオスプレイ配備

八重山教科書問題と南西防衛・与那国自衛隊基地建設

日米同盟の強固な経済的、物質的な基礎、これとの闘い（10年戦争）

2 沖縄連帯、日本帝国主義国家解体の展望

ナショナリズムについて

2-1 沖縄—東京

地域の軸から

沖縄（—日本国家）—東京（n個の地域）—東アジア・環太平洋諸地域
群島世界？

2-2 脱帝国、脱植民地、脱冷戦

『脱帝国』（陳光興）に学ぶ（p26～38）（p102～115）

台湾から見た、日本の戦後と近代総括

竹内好『国の独立と理想』（1952年）

2-3 沖縄から東アジア（南北朝鮮、台湾、中国）につながる

孫歌さん『竹内好という問い』、『沖縄に内在する東アジア戦後史』（沖大ブックレット『アジアのなかで沖縄現代史を問い直す』）

『世界史のなかの中国』「琉球—戦争の記憶、社会運動、そして歴史解釈について」（汪暉）

辛亥革命100年、魯迅、ケーテ・コルヴィッツ

東アジア近代の歴史的経験を学び直す。

魯迅・竹内好（日本のアジア主義）

2-4 日本を沖縄から東アジア・環太平洋圏—ネシアに開く

日米関係の再定義